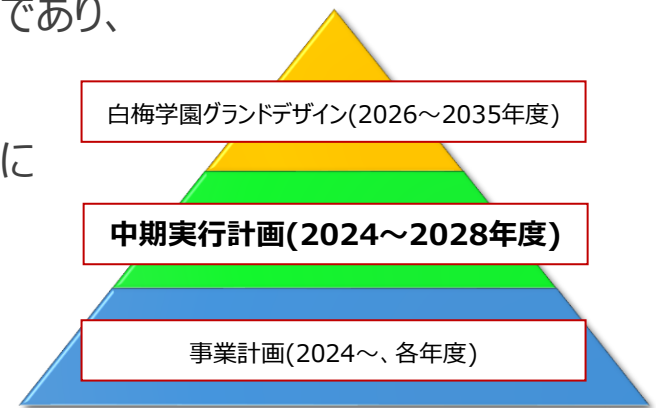


第2期中期実行計画

(2024~2028年度)

第2期中期実行計画の趣旨

1. 私立学校法第45条の2の規定に基づき、第1期中期実行計画（2019年度～2023年度）の実施状況を踏まえて、2024年度以降の学園全体の事業の計画的な実施を図るために策定する。
2. 対象期間は2024年度～2028年度の5年間とする。
3. なお、本中期実行計画の計画期間中である2025年度に、その後の10年間を対象とし、本学園の建学の精神を踏まえた中長期の将来構想をまとめる「白梅学園グランドデザイン」を策定する予定である。このため、グランドデザイン策定に向けた検討状況や策定されたグランドデザインの内容を踏まえ、必要に応じて本中期実行計画を見直すものとする。
4. 本中期実行計画は「白梅学園グランドデザイン」でまとめる将来構想のもとで、5年間の中期的な計画を示すものであり、さらに中期実行計画を踏まえた具体的な行動計画を各年度の事業計画として策定する。中期実行計画及び事業計画の実施状況・進捗状況については定期的に確認し、その後の計画実施・行動に反映させるものとする。



建学の精神

白梅学園の建学の精神は、人を尊ぶ思いやりのところを根幹とし、人間を愛し、人間の価値を最高度に実現しようとする「ヒューマニズムの精神」にある。個人の価値を高めるとともに、各分野を通じて広く社会の幸福に建設的な社会人の育成を目指す。

第2期中期実行計画策定の基本的な考え方

1. 少子化による大学進学者数の減少、Society5.0時代の到来、AIの発達など情報化の進展による求められる人材育成、仕事の価値観の変化、SDGsへの貢献の要請など、教育機関を取り巻く環境、社会からの要請が大きく変化する中で、改めて、本学園の建学の精神である「ヒューマンイズムの精神」に立ち返り、各学校の教育理念を確認し、本学園に求められる社会的要請を踏まえて、使命感をもって教育・研究・社会貢献に取り組んでいく。
2. 建学の精神のもと、学生・生徒・園児本位の姿勢に立って、一人一人の将来を見据え、それぞれの可能性を最大限広げる教育を推進する。このため、今までのやり方のみならず、よりよいものを積極的に取り入れて向上させていくために新たな挑戦を行うとともに、5つの学校を設置・運営する学園全体の力を合わせて、横断的に取り組んでいく。
3. 2024（令和6）年度に大学に新学科（「子ども心理学科」及び「教育学科」）を設置することも踏まえ、これまで主に取り組んできた「教育、社会福祉分野」を中心に、時代の変化を見据え、地域や社会で新たに生まれる課題の解決やニーズに対応することを通して「教育力・研究力」を高めるとともに、新たな社会的要請に対しても先駆的挑戦者として取り組む。ひいては日本や世界を先導し、貢献するものとして、新たな魅力ある白梅学園となることを目指す。
4. 上記の観点も踏まえ、急速な環境変化の中で、今後とも本学園が社会的要請に応じて教育・研究・社会貢献を継続的に実施することが可能となるよう、中長期的な展望に立って、教学・経営両面で計画的な事業実施、改善等を図るため、白梅学園グランドデザインを策定する。このグランドデザインに示された将来構想の下に、それを具体的に実現するため、中期実行計画・各年度の事業計画を策定し、実行する。

【法人・学園全体】




【法人・学園全体】基本的な考え方

1. 法人の経営・運営については、急速な環境変化の中で、今後とも本学園が教育、研究、社会貢献を継続的に実施することができるよう、収入の多元化・支出の見直し、各学校の自立的運営の促進などの学園財政の見直しを行う。
2. 建学の精神の伝承を図るとともに、創立80周年事業を遂行する。その一環として大学・短期大学新校舎の建築を行う。
3. 各学校の教学と法人経営を融合させながら、中長期視点に立って本学園の持続的な運営・発展を可能にするため、白梅学園ランドデザイン策定のとりまとめ及び経営ランドデザインの策定を行う。
4. 本学園への理解を深める等の観点から、本学園の活動に関する情報の積極的な発信や地域社会への貢献を進めるとともに、ブランディングを推進する。
5. 法人の運営を円滑・適切に実施するため、事務体制・機能の強化を図るとともに、私立学校法の改正も踏まえ、ガバナンスの改善・強化を図る。

【法人・学園全体】項目別スケジュール

項目	達成目標 目指す姿	目標達成のための実行計画(5年計画)				
		2024	2025	2026	2027	2028
(1) 学園財政の見直し(収入の多元化・支出の見直し・各学校の自立的運営)	<p>学園を取り巻く厳しい環境下においても安定した運営ができるよう財政基盤を整える。</p> <p>① 学園の財政構造の特徴を踏まえ、支出構造の見直しを図る。</p> <p>② 学生納付金等収入の確保に向け、教学と連携して学生数等の増加策を検討する。</p> <p>③ 収入の多元化を図り、資産運用とともに、補助金、寄付金等獲得の取組を強化する。</p> <p>④ 各部門の自立的運営を図るため、各部門における財政上及びその他の必要な対応を検討・実施する。</p> <p>⑤ 財政状況の推移に応じて、部門、組織の見直しを行う基準等を検討する。</p>	<p>財務面からの対応策案を検討し、白梅学園ランドデザイン策定会議等における検討に供する。</p>	<p>白梅学園ランドデザイン策定会議等において、財務面からの対応案について法人全体、各部門で検討し、対応策のとりまとめ、第2期中期期間中の目標値の設定を行う。</p>	<p>対応策の実施、効果の検証を行う。</p>	<p>対応策の実施、効果の検証を行う。</p>	<p>目標値達成状況の検証、次期期間にむけた対応の検討を行う。</p>

【法人・学園全体】項目別スケジュール

項目	達成目標 目指す姿	目標達成のための実行計画(5年計画)				
		2024	2025	2026	2027	2028
(2) 学園施設設備の更新 (大学・短期大学新棟の建築・建て替え計画、ICT計画)	① 大学・短期大学新棟については、予算内でできるだけ良い建物となるよう検討を重ね、2026年度の供用開始に向けて着実に設計・工事を推進する。 ② 既存棟の部分修繕、A・B棟の解体、中庭の再整備を2027年度中に完了し、学生・生徒・園児にとって居心地の良い場所を確保する。併せて高校・中学・幼稚園の教育環境整備も実施する。	新棟及び既存棟の部分修繕、中庭について設計を完了する。 新棟建築に着手する。	新棟の竣工。	新棟の供用開始。 A棟の解体。 既存棟の部分修繕。	B棟の解体。 中庭の再整備。	高校・中学・幼稚園の教育環境整備。
	① 既存建物の長寿命化のため、修繕計画を見直し。 ② 建て替え時期の見直しやコンパクト化など、既存建物の建て替え計画の見直しを行う。 ③ インフラ設備の更新計画を立案する。 ④ 上記計画に基づき、修繕及び施設更新を実施する。	修繕計画を見直し。 既存建物の建て替え計画を見直し。 インフラ設備の更新計画立案。	計画に基づき、修繕及び施設更新を実施する。			

【法人・学園全体】項目別スケジュール

項目	達成目標 目指す姿	目標達成のための実行計画(5年計画)				
		2024	2025	2026	2027	2028
(2) 学園施設設備の更新 (大学・短期大学新棟の建築・建て替え計画、ICT計画)	<p>① 情報インフラの整備改修について補助金を活用し、費用対効果を勘案したうえで適切な時期に実施する。</p> <p>② 教育研究分野、事務部門共に各種プロセス変更を伴う業務見直しを行い、時代に応じたITサービス関連の整備を適切に実施し、ペーパーレス化の一層の促進を図り業務効率化・業務改善を促進する。</p> <p>③ 学園全体としてDX化を段階的に進める。アカウント統合認証、ワークフロー等各種システム整備を実施する事でセキュリティ強化、利便性向上を図る。</p>	<p>全学既存ネットワークインフラ/サーバリプレイス</p> <p>白梅高校PC教室、普通教室ICT環境リプレイス</p> <p>学生、教職員統合認証システム、ワークフロー本格稼働</p> <p>教職員端末リプレイス(中高幼)</p>	<p>新棟ネットワーク整備、棟間接続再整備</p> <p>ラーニングコモンズ等ICT環境整備</p> <p>既存E/F棟改修後ICT環境整備</p> <p>大短講義室AV整備</p> <p>清修教室ICT環境リプレイス</p>	<p>新棟供用開始後、コモンズ追加整備等</p> <p>基幹系システムのバージョンアップ</p>	<p>証明書自動発行システムリプレイス</p> <p>対外接続環境更新</p> <p>WEBサイトリニューアル</p>	<p>教職員端末リプレイス(大短/事務)</p> <p>大短講義室AV整備</p>


【法人・学園全体】項目別スケジュール

項目	達成目標 目指す姿	目標達成のための実行計画(5年計画)				
		2024	2025	2026	2027	2028
(3) 事務体制・機能の強化	<p>① 1期に取り組んだ組織の見直しを継続し、誰もが活躍できる体制を構築する。特に業務に優先順位をつけて整理することによって時間を創出し、横断的に業務を行う余力のある組織を目指す。</p> <p>② 事務職員のさらなる質的向上を目指し、評価と改善の見える化を行い、情報収集、発信・提案ができる職員の育成を図る。</p> <p>③ 職員のモチベーションを向上させてより良い業務を行うために、働きやすい職場を目指し、労務課題を解決する。</p>	<p>「仕事評価基準」の策定</p> <p>事務職員のキャリア形成支援</p> <p>労働課題の棚卸</p>	<p>「職員配置基準」ならびに「昇進・昇給基準」の策定</p> <p>労働課題に優先順位をつけて改善</p>	<p>2026年度大学短大新棟使用開始に合わせて、事務組織の見直し</p> <p>労働課題に優先順位をつけて改善</p>	<p>組織見直しの振り返りと強化</p> <p>事務職員への聞き取り実施</p> <p>研修の充実</p>	<p>未達成課題の改善</p> <p>社会変化への対応</p>

【法人・学園全体】項目別スケジュール

項目	達成目標 目指す姿	目標達成のための実行計画(5年計画)				
		2024	2025	2026	2027	2028
(4) 白梅学園グランドデザインの策定(情報の積極的な発信、地域社会への貢献、ブランディングの推進を含む)	<p>① 経営及び教学の各グランドデザイン策定分科会にて検討した教学・経営グランドデザインの統合・調整を図り、白梅学園グランドデザインを策定する。策定後は、ホームページ等にて学内のみならず広く公表する。</p> <p>② 長期にわたって信頼を得られるとともに、学園全体で一体感を感じられる学園ブランドイメージを育て、その浸透を図る。継続的な発信の仕組みを作るとともに、定着を図る。</p> <p>③ 広報媒体の有効活用と機能の充実のため、ホームページを充実させ機能強化を図る。新しい広報媒体(SNS等)を積極的に活用する。</p>	<p>5つの策定分科会の開催。各分科会間では随時情報共有。</p> <p>5つの策定分科会から策定会議へ中間報告。</p> <p>各部門の取り組み、近況報告を1つにまとめ、一体感を持って地域社会に発信。</p> <p>WEB閲覧状況の分析・検証。ページ構成・レイアウト構成・アクセスのしやすさ等について随時見直し。</p>	<p>5つの策定分科会から策定会議へ各最終報告。</p> <p>5つの最終報告を策定会議にて統合・調整。</p> <p>策定会議にて白梅学園グランドデザイン策定。</p>	<p>白梅学園グランドデザインの公表・スタート。</p> <p>白梅学園グランドデザインに沿ったブランドイメージ戦略の推進。</p> <p>SNSの特性を活かした新たな情報発信や強化。</p>	<p>白梅学園グランドデザイン策定に伴う、中期実行計画の見直し、検討。</p>	<p>ブランドイメージ戦略見直し、検討。</p> <p>ホームページ、SNS戦略の見直し、検討。</p>

【法人・学園全体】項目別スケジュール

項目	達成目標 目指す姿	目標達成のための実行計画(5年計画)				
		2024	2025	2026	2027	2028
(5) 建学の精神の伝承、創立80周年記念事業の推進	<p>① 学園創立80周年記念事業について、記念誌（学園史（補遺版））の編纂、寄付金（目標金額2億円）の募集、その他事業を学園全体で進める。新棟関連工事が完了後、記念式典を実施する。</p> <p>② 建学の精神について、学園史編纂の中で改めて見つめなおし、全教職員で深め実践できる方法を模索する。新入職者への建学の精神の伝承等についても取り組む。</p>	学園創立80周年記念事業募金の継続実施（～2028年3月）		<p>大短新校舎の供用開始（プレオープン）に伴い、募金活動のさらなる推進。</p> <p>記念誌に関する各部門責任者との最終調整。</p>	学園創立80周年記念式典。記念誌の発行。	<p>高等学校・中学校・幼稚園の教育環境整備</p> <p>学園創立80周年記念事業の完了。</p>

【法人・学園全体】項目別スケジュール

項目	達成目標 目指す姿	目標達成のための実行計画(5年計画)				
		2024	2025	2026	2027	2028
(6) 私立学校法 改正も踏まえ たガバナンス 改善・強化	<p>① 2025年度施行予定の改正私学法の趣旨である「執行と監視・監督の役割の明確化・分離」「建設的な協働と相互けん制」への対応として寄付行為を改定し、理事・理事会、監事及び評議員・評議員会の権限分配を整理する。</p> <p>② 改正私学法、及び関連の法令に基づき内部統制システムを整備する。</p> <p>③ 「白梅学園大学・白梅学園短期大学ガバナンス・コード」については、毎年度順守状況を公開するとともに、改正私学法の内容も踏まえて、3か年ごとに内容を見直す。</p>	<p>改正私学法への対応として、役員・評議員の任期延長を含む寄付行為の改定を行う。</p> <p>改正私学法の規定に基づき内部統制システム整備のために必要な体制整備を行う。</p>	<p>改正私学法の施行に伴い、「理事及び評議員選任機関」の設置、内部統制システムの構築。</p> <p>「白梅学園大学・白梅学園短期大学ガバナンス・コード」の見直し。</p>	<p>必要に応じてガバナンス体制・規定等の見直し。</p>	<p>必要に応じてガバナンス体制・規定等の見直し。</p>	<p>「白梅学園大学・白梅学園短期大学ガバナンス・コード」の見直し。</p>

 学校法人白梅学園

【白梅学園大学】

【大学】基本的な考え方

1. 教育：
 - ①GX（グリーントランスフォーメーション）など変化していく社会に呼応しつつ、学部教育のさらなる質向上を図るため、新たな学科を設置し、学部全体の専門性の向上等をめざす。
 - ②導入教育からゼミナールを経て卒業論文作成及び発表に至るまでの学びの過程を描き、3つのポリシーと連動した教育環境システムの構築を行うことで、さらなる教育の質向上サイクルを展開することをめざす。
2. 研究：
 - ①教員が教育と研究のどちらかに偏ることなく、ともに充実させ、質の向上を図る。またそれらが正当に評価されるしくみを検討し、大学内全体の偏重を見直すことにつなげることをめざす。
 - ②子ども学アーカイブの構築のため、特色あるコレクション収集に努め、「子ども学」を中心とする大学ブランド力の強化に寄与するとともに、大学開学以来の通史を整理する。
3. 地域：

地域と大学による共創協働に向けて、大学・大学生が行う活動が市民性意識の醸成や地域コミュニティ力の向上に寄与し、大学がローカルコモンズとしての機能を高めることをめざす。
4. 支援：

個別支援の充実はもちろんのこと、全ての学生にとって、充実した学生生活を送るため、誰にとっても過ごしやすく、居心地の良い学生生活環境の整備をめざす。
5. 運営：

社会・地域から求められる高等教育機関であり続けるために、先を見通しづらい予測不可能な時代にあっても、堅実で計画性のある運営を着実にを行い、建学の精神の継承と社会の変化に応じたしなやかな変革をめざす。





















【大学】項目別スケジュール

項目	達成目標 目指す姿	目標達成のための実行計画(5年計画)				
		2024	2025	2026	2027	2028
1-① 4 学科体制 での目的遂 行 (専門性向 上、時間割 余裕、エン ロールマネジ メントの強化)	<ul style="list-style-type: none"> ・学位プログラムごとに一貫性のある学生指導ができています。 ・高度化専門科目が着実に履修され、学生の学びが深まっている。 ・教職志向者のキャリア教育を適切に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新学科開設 4 年先を見据えた初年次教育の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・コース選択、 実習経験等を通じたキャリア教育の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門ゼミナール指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・1 期生卒業 年次指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・新学科の振り 返り、改善方 策の実施
1-② 可視化した学 修成果を用いた教育の質向 上サイクルの 展開	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テキストの導入が教育の質向上につながっている。 ・アンケートを活用した効果測定ができています。 ・学科でまとめたリフレクションシートにより、教育活動の振り返り、改善方策の実施を記録できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テキスト の使用開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・教養ゼミ・ルー ブリック評価の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テキスト の活用効果測 定の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文 ルーブリック評 価の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラム の振り返り、改 善方策の実施









【大学】項目別スケジュール

項目	達成目標 目指す姿	目標達成のための実行計画(5年計画)				
		2024	2025	2026	2027	2028
2-① 研究活動の 全体活性化 と倫理向上 (適切なエ フォートと評価、 大学刊行物 の内容充実)	<ul style="list-style-type: none"> 要件が改善された個人研究費が有効に使われている。 学内刊行物への投稿が活発に行われている。 学内助成が積極的に活用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 要件改善後の個人研究費制度の活用 	<ul style="list-style-type: none"> 学内助成の効果測定の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 個人研究費の執行率等の検証 	<ul style="list-style-type: none"> 学内刊行物への影響度確認 	
2-② 子ども学アー カイブの構築 と大学年史の 編纂準備	<ul style="list-style-type: none"> 大学、短大年史資料の収集、整理、編纂準備が進んでいる。 古田家寄贈書、小松隆二氏寄贈書が整理され、公開されている。 子ども学アーカイブの構築が進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 寄贈書コレクションの一部公開 	<ul style="list-style-type: none"> コレクションリストの公開 	<ul style="list-style-type: none"> 大学25年史編纂準備委員会の立ち上げ 	<ul style="list-style-type: none"> 編纂準備開始 	<ul style="list-style-type: none"> 編纂作業進行

【大学】項目別スケジュール

項目	達成目標 目指す姿	目標達成のための実行計画(5年計画)				
		2024	2025	2026	2027	2028
3 地域のニーズに 応える「特定課 題活動」の継続 ／「地域課題解 決型プロジェクト」による地域の シーズ発見／講 座開催による社 会貢献	・特定課題活動が継続して実施 されている。	・特定課題活 動の継続				
	・地域課題解決型プロジェクトの 新規案件の提案があり、積極的 に取り組まれている。	・地域課題解 決型プロジェ クトの新規実施 と振り返り				
	・社会の要請にこたえる公開講 座、研修講座が開催されている。	・各種講座の 開催				
4 学生の居心地の 良い空間づくりの 促進／組織的、 包括的な学生 支援体制の構 築／多様な体 験活動を通した キャリア啓発活 動の推進	・キャンパスソーシャルワーカーの 雇用が常態化し、学生生活支 援室が有効に機能している。	・健康生活支 援センターを中 心とする支援 組織運営				
	・学生の居場所空間に、新棟、 既存棟あわせて400席以上確 保できている。	・既存施設活 用の工夫	・既存施設活 用の工夫	・新棟コモンズ の設置	・既存棟コモン ズの設置	・既存施設活 用の工夫
	・トイレの洋式便器率が80%を 超えている。	・トイレの洋式 化(F棟1,2 階)	・トイレの洋式 化(E棟全階)	・トイレの洋式 化(F棟3,4 階)	・トイレの改修 (I棟全階)	・トイレの改修 (J棟)
	・地域連携ボランティアへの参加 が、学生のキャリア啓発に寄与 している。	・地域連携ボラ ンティアの実施				

【大学】項目別スケジュール

項目	達成目標 目指す姿	目標達成のための実行計画(5年計画)				
		2024	2025	2026	2027	2028
5-① 新学科設置に続く、新たなプランの検討 5-② 広報戦略の策定効果検証	・白梅学園グランドデザインと連動し、2026年度までに新たなプランが具現化されている。 ・費用対効果を検証した予算配分システムが実行されている。	・SGD検討 ・新プランの具現化	・SGD検討、策定 ・新プランの具現化	・SGD期間開始 ・新プランの具現化	・SGD期間開始 ・第1段階改組完成年度	・SGD期間開始 ・第1段階改組の振り返り
5-③ 第三者評価を通じた、より適切なガバナンス体制の構築	・透明性の高い執行体制が築かれている。	・改定規程体制による執行				
5-④ リスク管理のため、危機管理マニュアルの整備	・危機管理マニュアルが策定されている。	・諸規定、マニュアルの整備				

【白梅学園短期大学】

【短期大学】基本的な考え方

1. 教育：

①GX（グリーントランスフォーメーション）など変化していく社会に呼応しつつ、短大教育のさらなる質向上を図るため、定員を80名にし、新しい教育課程による魅力ある保育者育成を行う。

②2年制課程の強みを生かし、学修カルテを用いて可視化した学修成果を、即時に教育の質向上サイクルに反映させることをめざす。

2. 研究：

教員が教育と研究のどちらかに偏ることなく、ともに充実させ、質の向上を図る。またそれらが正当に評価されるしくみを検討し、大学内全体の偏重を見直すことにつなげることをめざす。

3. 地域：

地域と短期大学による共創協働に向けて、短期大学・短大学生が行う活動が市民性意識の醸成や地域コミュニティ力の向上に寄与し、短期大学がローカルコモンズとしての機能を高めることをめざす。

4. 支援：

個別支援の充実はもちろんのこと、全ての学生にとって、充実した学生生活を送るため、誰にとっても過ごしやすい、居心地の良い学生生活環境の整備をめざす。

5. 運営：

社会・地域から求められる高等教育機関であり続けるために、先を見通しづらい予測不可能な時代にあっても、堅実で計画性のある運営を着実にを行い、建学の精神の継承と社会の変化に応じたしなやかな変革をめざす。

【短期大学】項目別スケジュール

項目	達成目標 目指す姿	目標達成のための実行計画(5年計画)				
		2024	2025	2026	2027	2028
1-① 新カリキュラムの実装 (80名定員、1年前期ゼミ)	・入学時からのきめ細かいゼミ指導ができています。	・1年前期ゼミ実施	・新カリ適用生卒業年次	・新カリ振り返りの実施	・改善方策の実施	・振り返りの実施
1-② 短大独自の学修カルテを用いた学修成果の可視化	・学修成果を可視化し、教育活動の振り返り、改善方策の実施に活かしている。 ・共通テキストの導入が教育の質向上につながっている。 ・リフレクションシートにより、教育活動の振り返り、改善方策の実施を記録できている。	・共通テキストの使用開始	・学修カルテのまとめ振り返り	・共通テキストの活用効果測定の実施	・学修カルテ運用2巡目の振り返り	・学修カルテのブラッシュアップ
2 研究活動の全体活性化と倫理向上(適切なエフォートと評価、学内刊行物の内容充実)	・要件が改善された個人研究費が有効に使われている。 ・学内刊行物への投稿が活発に行われている。 ・学内助成が積極的に活用されている。	・要件改善後の個人研究費制度の活用	・学内助成の効果測定の実施	・個人研究費の執行率等の検証	・学内刊行物への影響度確認	







【短期大学】項目別スケジュール

項目	達成目標 目指す姿	目標達成のための実行計画(5年計画)				
		2024	2025	2026	2027	2028
3 地域のニーズに応える「特定課題活動」の継続／「地域課題解決型プロジェクト」による地域のシーズ発見／講座開催による社会貢献	・特定課題活動が継続して実施されている。	・特定課題活動の継続	→	→	→	→
	・地域課題解決型プロジェクトの新規案件の提案があり、積極的に取り組まれている。	・地域課題解決型プロジェクトの新規実施と振り返り	→	→	→	→
	・社会の要請にこたえる公開講座、研修講座が開催されている。	・各種講座の開催	→	→	→	→

【短期大学】項目別スケジュール

項目	達成目標 目指す姿	目標達成のための実行計画(5年計画)				
		2024	2025	2026	2027	2028
4 学生の居心地の良い空間づくりの促進／組織的、包括的な学生支援体制の構築／多様な体験活動を通じたキャリア啓発活動の推進	・キャンパスソーシャルワーカーの雇用が常態化し、学生生活支援室が有効に機能している。	・健康生活支援センターを中心とする支援組織運営	→	→	→	→
	・学生の居場所空間に、新棟、既存棟あわせて400席以上確保できている。	・既存施設活用の工夫	・既存施設活用の工夫	・新棟コモンズの設置	・既存棟コモンズの設置	・既存施設活用の工夫
	・トイレの洋式便器率が80%を超えている。	・トイレの洋式化 (F棟 1,2階)	・トイレの洋式化(E棟全階)	・トイレの洋式化 (F棟 3,4階)	・トイレの改修 (I棟全階)	・トイレの改修 (J棟)
	・地域連携ボランティアへの参加が、学生のキャリア啓発に寄与している。	・地域連携ボランティアの実施	→	→	→	→

【短期大学】項目別スケジュール






項目	達成目標 目指す姿	目標達成のための実行計画(5年計画)				
		2024	2025	2026	2027	2028
5-① 短大将来像の検討と教員業績作成促進	・白梅学園ランドデザインと連動し、短大将来像を示すロードマップが策定されている。	・SGD検討 ・ロードマップ検討	・SGD 検討、策定 ・ロードマップ検討、策定	・SGD期間開始 ・ロードマップに照らし合わせ、施策を実行		
5-② リスク管理のため、危機管理マニュアルの整備	・危機管理マニュアルが策定されている。	・諸規定、マニュアルの整備				

【白梅学園高等学校】







【高校】基本的な考え方

1. 生徒を中心に据え、教職員・保護者・卒業生・関係諸機関が連携して、生徒の学力と人間力の伸長を成し遂げる。
2. 授業等において「生徒間の対話と表現」のある場面を取り入れると共に、総合的な探究の時間における探究活動等を通して、生徒の思考力・判断力・表現力を高める。
3. 学習と共に学校行事・部活動・生徒会委員会活動などに尽力する生徒の活動を支援し、成就感・達成感を味わうことのできる学校生活を過ごさせる。
4. 私立女子単独校として「生徒・教職員の良さ」や「女子校の良さ」をさまざまな方法でアピールし、安定した入学者数を確保する。

【高校】項目別スケジュール

項目	達成目標 目指す姿	目標達成のための実行計画(5年計画)				
		2024	2025	2026	2027	2028
(1) 質の高い授業づくり	・生徒間の対話と表現のある授業が日常的に実践されている。	・授業担当者による実践(非常勤講師も含む)	・同一科目担当者間での実践情報共有	・同一教科内での実践情報共有	・全体での実践情報共有	・全体での実践情報共有
	・どの学年・クラスにおいても生徒たちが当たり前思考・対話・表現できている(※)。					
	※2023年度までに目標を達成済み。2024年度以降も維持・継続する。					
	・全校生徒による授業評価結果4.5(対話)	・授業評価4.2	・授業評価4.3	・授業評価4.4	・授業評価4.45	・授業評価4.5

【高校】項目別スケジュール

項目	達成目標 目指す姿	目標達成のための実行計画(5年計画)				
		2024	2025	2026	2027	2028
(2) 生徒が達成感・成就感を味わえる特別活動	・生徒たちが体育祭・合唱コンクール・白梅祭を大いに楽しみ、帰属意識を高め、達成感・成就感を味わうことができる。	・生徒の実態、社会情勢を踏まえた計画・実施	・実行委員会の主体性を育てる支援			・実行委員会の主体性を活かした計画・実施
	・学習と特別活動との両立を図ることができる。	・学校説明会でのPR。自学習の確認・働きかけ				

【高校】項目別スケジュール

項目	達成目標 目指す姿	目標達成のための実行計画(5年計画)				
		2024	2025	2026	2027	2028
(3) 生徒の希望 進路の実現	・現役合格：国公立15名、早慶 上理20名、GMARCH35名	・国公立系在 籍者を安定的 に確保	→	→	→	→
	・模試の分析と共有（特別選抜 コース会議及び教員会）	・各学期で共 有	→	→	→	→
	・効果的・組織的な教科指導の確 立	・教科内で検 討	・教科内で検 討	・教科内で実 践	→	→

【高校】項目別スケジュール








項目	達成目標 目指す姿	目標達成のための実行計画(5年計画)				
		2024	2025	2026	2027	2028
(4) 入学者数の 安定確保	<ul style="list-style-type: none"> ・募集人員の確保（当面一学年280人の人員確保を目指す。） ・特別選抜コースの入学生を確保するために、塾訪問をルーティン化する。（国公立系生徒の出身塾） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校 Web サイトの適切な更新 	→	→	→	→
		<ul style="list-style-type: none"> ・SNSによる情報発信 	→	→	→	→
		<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業日までの塾訪問 	→	→	→	→

【清修中高一貫部】







【清修】基本的な考え方

1. 生徒を中心に据え、教職員・保護者・卒業生・関係諸機関が連携して、生徒の学力と人間力の伸長を成し遂げる。
2. 授業等において「生徒間の対話と表現」のある場面を取り入れると共に、総合的な探究の時間における探究活動等を通して、生徒の思考力・判断力・表現力を高める。
3. 学習と共に学校行事・部活動・生徒会委員会活動などに尽力する生徒の活動を支援し、成就感・達成感を味わうことのできる学校生活を過ごさせる。
4. 私立女子単独校として「生徒・教職員の良さ」や「女子校の良さ」をさまざまな方法でアピールし、安定した入学者数を確保する。












【清修】項目別スケジュール

項目	達成目標 目指す姿	目標達成のための実行計画(5年計画)				
		2024	2025	2026	2027	2028
(1) 特色ある教育 活動の推進と 充実	・(女子教育) 女子校の社会的ニーズに応え、女子教育のよさを生かした教育活動に取り組む。	・グループや異学年での活動を意図的に取り入れる。	・学校行事等で適材適所で活躍の場を設定する。	・上級生の活躍からキャリアを考える機会とする。		
	・(英語教育) 英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする意欲を高める機会を設定し、英語によるコミュニケーション能力の育成を目指す。	・習熟度別少人数指導の効果を検証する。 ・学校行事の中で英語を使う場面を多く設定する。	・ネイティブとのミッションカードを多くの生徒に広げる(中1は必修)。			
	・(ICTの活用) ICTを適切に活用した学習活動の充実を図り、主体的な学びの基盤となる資質・能力の育成を目指す。	・Classiを活用した指導実践を交流し、活用を広げる。	・Classiの活用を広げ、生徒の主体的な学びを深める。	・Classiを活用して、生徒の個別最適な学びを支援する。		






【清修】項目別スケジュール

項目	達成目標 目指す姿	目標達成のための実行計画(5年計画)				
		2024	2025	2026	2027	2028
(2) 学力向上に 向けた教育活 動全体の質 の向上	・基礎的・基本的な学習内容を実 実に身に付ける。	・学生ボランティアによるTTを実 施 ・数学科で習熟 度別授業、検 定教科書を使用する。	・朝学習に全学 年、読解力テキ ストを使用する。	・基礎力コンテ ストに全学年、 読解力を含んで 実施する。		
	・思考力・表現力を向上させる学習 の充実を図る。	・朝学習に読解 力向上を目指 した系統的な学 習に取り組む。	・生徒の学力を 定期的に分析 し授業改善を 図る。 ・高1の5000 字論文を探究 学習に位置づけ 計画的に指導 する。	・教科ごとに生 徒の学力を定 期的に分析し、 授業改善を図 る。 ・5000字論文 発表会を対外的 に公開する。		
	・学力向上PTのもと学力向上に向 けた授業改善に、組織的に取り組 む。	・進路指導の事 例研究会を年3 回実施する。	・教科ごとに授 業公開し、授業 改善をめざす。 ・大学入試に対 応できる進路・ 教科指導力を もつ。	・全校教員に授 業を公開し、授 業改善をめざす。		

【清修】項目別スケジュール

項目	達成目標 目指す姿	目標達成のための実行計画(5年計画)				
		2024	2025	2026	2027	2028
(3) 自己実現に 向けた生徒指 導の充実	・特別の支援を必要とする生徒の情 報を共有し、一人一人の教育的 ニーズに応じた適切な支援を行う。	・白梅学園大 学と連携を図り、 特別支援教育 の研修として事 例研究会をもつ。	・校内委員会に 心理の専門家 を交えたケース 会議を定期的 にもつ。	・生徒だれもが 学びやすい学習 環境を整える。		
	・清修のリーダーシッププログラム (MKS)により、生徒一人一人の夢 や可能性の実現を支援する。	・MKSへの取組 について共通認 識を職員間でも つ。	・MKSを学校行 事の中に意図 的計画的に取り 入れる。	・生徒が学校行 事に自主的・意 欲的に取り組む。		
(4) 学校運営組 織の強化	・財政収支を考慮のもと、指導の継 続のため無期雇用（専任）教員 の割合を増やす。	・10学級のもとでの 教員定数を確 保	・11学級のもとでの 教員定数を確 保 ・専任教員の確 保	・12学級のもとでの 教員定数を確 保		
	・校務分掌組織の中で主任的立場 の教員の育成を図る。	・担任と副担任の 連携を明確化す る。 ・若手教員の OJTへの支援体 制をつくる。	・若手教員の OJT年間計画に 基づいて実施す る。	 ・各分掌の内容 を整理し効率的 な校務運営を構 築し、教員の働き 方を改革する。	 	 

【清修】項目別スケジュール

項目	達成目標 目指す姿	目標達成のための実行計画(5年計画)				
		2024	2025	2026	2027	2028
(5) 生徒募集のための戦略の構築	・学校説明会では生徒のよさ、女子校の魅力を伝えられる工夫を重ねる。	・様々なところで活躍する生徒によるプレゼンを計画する。	・学校行事で生徒との関わりを重視する。	・女子校のよさをアピールできる学校行事を広報する。		
	・特色ある活動（女子教育・英語・ICT）、女子校の魅力を明確にして、学校説明会や様々な媒体を通して、積極的に発信する。	・特色ある活動をマスコミに発信していく（鉄道・国内英語研修）。	・特色ある活動をマスコミに発信していく（鉄道・国内海外英語研修・英語ディベート）。			

学校法人白梅学園

白梅学園大学附属
【白梅幼稚園】








【幼稚園】基本的な考え方

1. 子ども自ら遊び、探究と協働を深める幼児教育の先進的な実践と研究を行い、その成果を発信する。
2. 大学・短大と教育・研究において連携・協力を強化し、大学附属園として先導的な役割を果たす。
3. 未就園児、在園児の保護者の保育理解を深めるとともに、地域や関係諸機関と教育・研究や諸支援において連携し、地域における子どもの健やかな育ちに資する。
4. 本園の特色をふまえてブランディングを図り、変化する諸状況をふまえて募集広報を行い、入園児の確保に努める。

【幼稚園】項目別スケジュール

項目	達成目標 目指す姿	目標達成のための実行計画(5年計画)				
		2024	2025	2026	2027	2028
(1) 「子ども自ら遊ぶ」先進的な 幼児教育の 実践の構築	・保育環境に誘われ、「もの」「人」「こと」を相互に関連付け、子ども自ら遊びを立ち上げ、深める「子ども自ら遊ぶ」幼児教育を実践する。	・クラス、学年、異学年交流など種々の次元で「子ども自ら遊ぶ」幼児教育を実践する。	→	→	→	→
	・遊びを誘発し、かつ、安全で衛生的であるように、保育構想に基づき、室内外の保育環境の最適化を図る。	・保育環境について保育構想の反映や、安全と衛生の側面から構成し、再編する。	→	→	→	→
	・各種研修や諸会議を通し、保育者相互の意見交流を活発化させ、学びあう園組織を構築する。	・研修や諸会議の構成について検討し、本園の課題に照らして再編する。	・再編された研修や諸会議を実施し、園の諸活動と関連づける。	・他園等の参観や研究会参加者との交流により、本園の実践や研究の特質を明確化する。	・保育者各自の課題について、研修や諸会議との有機的な関連を図る。	・学びあう園組織の観点から、本園の研修や諸会議の構成と実施を評価する。



【幼稚園】項目別スケジュール

項目	達成目標 目指す姿	目標達成のための実行計画(5年計画)				
		2024	2025	2026	2027	2028
(2) 先進的な幼 児教育の研 究の推進	・子ども自ら遊び、探究と協働を深める幼児教育のカリキュラムを開発し、実施する。	・子ども自ら遊び、探究と協働を深める幼児教育のカリキュラムを取りまとめる。	・子ども自ら遊び、探究と協働を深める幼児教育のカリキュラムを実施し、マネジメントを行う。	・子ども自ら遊び、探究と協働を深める幼児教育のカリキュラムを実施し、改善を図る。		
	・文部科学省研究開発学校として、小平第一小学校とともに、幼小一体的なカリキュラム「生活ひろば」を開発する。	・文部科学省研究開発学校として幼小一体的なカリキュラムの開発を進める。		・文部科学省研究開発学校として幼小一体的なカリキュラムを完成させる。	・研究開発を振り返り、本園の保育やカリキュラムの価値と課題を検討する。	-
	・公開保育研究会の開催や、研究報告の刊行を行い、研究成果を公表する。	・公開保育研究会の開催や、研究報告の刊行を行い、研究成果を公表する。				

【幼稚園】項目別スケジュール

項目	達成目標 目指す姿	目標達成のための実行計画(5年計画)				
		2024	2025	2026	2027	2028
(3) 教育・研究・ 各種支援にお ける大学との 連携・協力の 強化	大学・短大による子ども学の実践や、 保育者養成教育に協力し、互恵 的な学びの関係を築く。	・教育実習やボ ランティア受入、 保育参観の機 会提供、学生と の交流などを実 施する。	→	→	→	→
	大学・短大の教員や学生に研究の 場を提供し、学術研究の成果の還 元を受けるとともに、本園の研究へ の支援を受けるなど、幼児教育に関 する研究を相互に高めあう。	・研究協力依頼 を検討し受け入 れるとともに、大 学と本園との共 同的な研究を推 進する。	→	→	→	→
	教員研修や保護者支援、発達・子 育ての相談・支援等、よりよい教育 を支える諸活動について、連携と協 力を図る。	・大学の発達・ 教育相談室や 専門領域の教 員と連携・協力 を行う。	→	→	→	→

【幼稚園】項目別スケジュール

項目	達成目標 目指す姿	目標達成のための実行計画(5年計画)				
		2024	2025	2026	2027	2028
(4) 未就園児保育の実質化と 園児募集の強化	・未就園児クラス『びよびよ』での保育を充実させ、保護者による本園の保育への理解を深化させ、入園後の円滑な生活の実現を図る。	・未就園児クラスの開講期を見直し、3歳児保育との接続を向上させる。	・未就園児クラスの保育内容を見直し、在園児の保育との接続を図る。	・未就園児クラスの園児の自立と保護者支援双方の両立を図る。	・未就園児クラスの園児を対象に、独自の企画や体験入園を実施する。	・保育と保護者支援を両輪にして、本園の保育への理解の深化を図る。
	・園児募集の課題について、変化する諸状況や諸環境をふまえて明確化し、都度、対応を図る。	・保護者の協力を得て、保護者目線から課題の明確化を図る。	・地域の子どもの数、情報取得経路、接触効果などを検討し対応する。	・当該年次の募集をめぐる諸状況をふまえて、対応を図る。		
	・メディアの特性を活かして、募集広報を行う。	・Web、SNS、紙媒体、口コミなどのメディアの特性に応じて、多角的に広報を行う。	